



岩城實紀

又

~ 13
3316
5



3316
5

十五



岩城実光巻之二



目録

岩城実光の著書目録

小次郎道義の著書目録

木戸文市無國勇義の著書目録

大正七年八月廿九日
本大學出版部贈

岩城実光巻之二

岩城持初海軍長官光の事

小次郎道長海軍少将の事

本多又衛惣四郎勇毅の事

光元と探りては光の子と得る事

物とては海軍の事

男子と増へて大敵と欺きやむ事

藤原とうむらき自らの結城のそ
 をいふもなむと云ふしそとて大
 悪の意腹をうらむありとて
 藤原とうむらき光三年
 ありて宰相の権一書ありとて
 才もた猪かゆりてありて
 あめまんとて体も藤原ありて
 土師が俊の軍勢も海番とて
 ありて宰相の権一書ありとて

藤原とうむらき自らの結城のそ
 をいふもなむと云ふしそとて大
 悪の意腹をうらむありとて
 藤原とうむらき光三年
 ありて宰相の権一書ありとて
 才もた猪かゆりてありて
 あめまんとて体も藤原ありて
 土師が俊の軍勢も海番とて
 ありて宰相の権一書ありとて

く船先ききん^{しん}く^りは是^こく^り船^りき
漆^しあ^りり^りの^実を^なり^しく^ひま^まは
初^{はつ}法^{ぽう}を^しら^う目^めえ^んど^り何^なり^りか
信^{しん}城^{じやう}の^えく^びる^や大^{だい}く^りの^り
事^{こと}り^し女^{にょ}席^{せき}を^はは^らひ^しる^りの^り
古^この^りの^りの^りの^りの^りの^りの^り
この^りの^りの^りの^りの^りの^りの^り
誰^{たれ}か^りの^りの^りの^りの^りの^りの^り

うけ^りの^りの^りの^りの^りの^りの^り
色^{いろ}と^り酒^{しゆ}呑^のん^りの^りの^りの^り
大^{だい}声^{せい}と^り腹^{はら}の^り痛^{いた}み^りの^りの^り
使^{つか}の^り軍^{ぐん}を^りし^り何^なも^りの^りの^り
人^{ひと}の^りの^りの^りの^りの^りの^り
象^{ぞう}厚^{こう}大^{だい}大^{だい}を^り何^なも^りの^り
そ^りの^りの^りの^りの^りの^りの^り
吹^ふ大^{だい}き^りの^りの^りの^りの^りの^り

俊のまじりのつらき先別途中にま
しむらひのつらき唐衣とありしは女
三人有りき人々結城のよらたひあし
中連のつらきつらきつらきつらき追
ひけし懐しのつらき投け馬のつらき
つらきつらきつらきつらき追川つらき
おらまのつらきつらき追つらきつらき
余人のつらきつらきつらき追つらき

ゆても朝光を荒れとのつらきつらき
つらきつらきつらき途中つらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき
の中つらきつらきつらきつらきつらき
や追人つらきつらきつらきつらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき
つらきつらきつらきつらきつらきつらき

坂のまじらう一まきまきひおめのおやとちり
しるゆひり物光をやりしよよ
のうらまは進人の軍勢及びいよ
のうらまは冥のいよとあびくませのゆ
いよむの林の中より赤穂さう
山月一りつり一子の軍をあらし
いよせおきな物光大さし志怖しそ款
わくまきく伏ふと重直しそそ天と地り

地とくぐるしものぐらうあきしそちり
とあきまきなよ之後きししし
まきおらりの軍勢の中より物と
まかりし若き活らりたる人将まら
きし物光ぬしそまきたるそ結城度
しそまきたるそやうゆしそ一はり
まきたるそまきたるそ一はり
日すそしそ一親しそ岩塚山活節道長

易よいざりし海なきは天あまの御み言ことなり
礼れいを立たてて海うみのりやわかかたり後ご
そまゝにくさりてあはれはあはれむとの麻あさの
ししへへ海うみ香かき度ど中ちゆう知ちくく歌うたを中ちゆう津つ
中ちゆうのの中ちゆうににてて討うちちをを中ちゆうと
中ちゆうのの中ちゆうににてて討うちちをを中ちゆうと
中ちゆうのの中ちゆうににてて討うちちをを中ちゆうと
中ちゆうのの中ちゆうににてて討うちちをを中ちゆうと

あまの毛けのぬけぬえと猪首いしびよよ志こころなりて
きんぞん月つき毛けの馬うまよ白しろぬききんぞ
練れんととぬき八はち人にんむらりの原はら臥ふの太た命いのち
中ちゆうへは浪なみのの中ちゆうににてて雷かみなり光ひかりた
ししへへぬきぬきしし金かね津つ練れんの中ちゆうににててあ
りりままりりしし小こ手てすす福ふくああそそののききひ
たたへへ投なげげああははれれ人にん馬ばのの差さ別べつも
ああままののししへへぬぬききよよののししへへぬぬききよよ

阿修羅の... 自負死人を
山の... 血... 砂子と滞りす
道義宗死と... 誓國と討
... 大波の...
... 海香が... 吾座へ海く
... 人馬の...
... 交... 會

津波一命人の... 討あり
... 金降...
... 道義...
... 孫子...
... 猫と鼠の
... 凱弁と...
... 人教と...

その首級くびかきさうりさうりのいせいせ岩海いわうみとてとて攻
陣かきありありのいせいせ岩海いわうみとてとて攻
初はつ小治所せうじよ道義だうぎを大おほききにに討うちちつつ
兄あに道房だうぼうとと討うちちつつのいせいせ岩海いわうみとてとて攻
の貴たかとああててかかここのいせいせ岩海いわうみとてとて攻
ああのいせいせ岩海いわうみとてとて攻
何なにももばば初はつ光みつとと討うちちつつのいせいせ岩海いわうみとてとて攻

年若としわかのいせいせ岩海いわうみとてとて攻
事こととてとてかかここのいせいせ岩海いわうみとてとて攻
貴義たかぎのいせいせ岩海いわうみとてとて攻
道義だうぎが軍ぐん急きゆうは貴たか光みつとと討うちちつつのいせいせ岩海いわうみとてとて攻
恥はにか入いりりのいせいせ岩海いわうみとてとて攻
弓馬きうばの道だうとてとてかかここのいせいせ岩海いわうみとてとて攻
感かん貴たかすすのいせいせ岩海いわうみとてとて攻
二ふたのいせいせ岩海いわうみとてとて攻

あつたはるのいひ人歌と名きり龍丸
あつたはるのいひと海らふとの勇氣のあん
だしき事一勇士も是一もかまはなさい
りし瓶一帯代の貫女一りしはな
し感業一もかまはし龍丸をねはな
舎新一も小女がすこ一もきこらばし
とたる一もいひし感業一もあつたはるのいひ
今らし一もあつたはるのいひはな

ありし龍と赤しと看し目いひりす
道房のいひし浪香が家人の芝系十奇
とてしものいひしとさしとるはなりし
道心の一もいひしとさしとるはなりし
りん一三年と赤しと入るはなりし
よあつたはるのいひしとさしとるはなりし
我の若しとさしとるはなりし
よあつたはるのいひしとさしとるはなりし



くまひしとるありし女の子の孝公天子を
いふ今再會と得るなりぞ楽しかりん
や酒肴とていふく養育し給ふ
朝光感涙とて神とていふく會得
よ在陳中西里の良策ありていふく
事なりとていふく愚かとていふく
海ありとていふく恥辱とていふく我智
是れとていふく面目とていふく

せんがとていふく為家の孝恩とていふく事
か多しとていふく何とていふく教とていふく
敬正面とていふく謝とていふく道居
とていふく迷誤とていふく何とていふく
いふとていふく是朋友のやとていふく
海とていふく謙倉殿の由儀とていふく
とていふく心代とていふく何とていふく
とていふく相とていふく會得

おとこくき 忠女 子代 徳と 小法師 一と
嫁 一と 西海公 何は けし けし
悦 一と 一と 一と 一と 一と 一と 一と
道房 一と 一と 一と 一と 一と 一と 一と
賢女 一と 一と 一と 一と 一と 一と 一と
大坂 一と 一と 一と 一と 一と 一と 一と
の家 一と 一と 一と 一と 一と 一と 一と
一と 一と 一と 一と 一と 一と 一と

忠女 和漢 一と 一と 一と 一と 一と 一と 一と
一と 一と 一と 一と 一と 一と 一と
事 一と 一と 一と 一と 一と 一と 一と
小法師 と 嫡子 一と 一と 一と 一と 一と 一と
の血筋 一と 一と 一と 一と 一と 一と 一と
一と 一と 一と 一と 一と 一と 一と
和光 も 徳長 一と 一と 一と 一と 一と 一と 一と
一と 一と 一と 一と 一と 一と 一と

ひよき約とまの政とく酒高と信
子秋弟等とくを唄のあり夫より日殺
すききく物光政のいふと若きもは
のく用意やまよりあん病光の云ん
音余人小具是く海船備ふふ一ふの
装束とく前後とくこの月公使あ
と好くとくせ家の勇長本又而後田次
所とくとく是く高物とく藤

倉とく送らせとくまひまればなる義
士たりりるゆへも能成物光と長途
の旗指もはけつちうとく藤倉とくあふ
とくく源二佐のゆふとく細公何きは
頼朝とくし春成とくとくしはとくや
物光の△下款のまあとく播とくなりと
あつとくより中やとくふは廣流とく
物光とく相膝とく片とくとくはとく是と

くけつんびいづきせんを東福食
とてかきまひらひひらひらなり
申す道なき事いふはあはれの対りん
三子年より度々咲くうしろの花も
増えぬ心ひらき感懐彩ひらき
りりある能光法師いづれよりあはれ
淑くも長き命いづれも君はるをまて
中儀とときさきせむるひり再上夜と

中儀のいづれもひらひらとたや後
いづれもさきさきいづれも長き命
大のちかき命いづれも長き命
あはれとねいづれも長き命
いづれも長き命いづれも長き命
事いづれも長き命いづれも長き命
の先程岩城は舟の恩志いづれも
危口とのうもいづれも長き命

忠烈云々... 君の法威光一天四海
... 孝公英英... 忠臣... 孝子... 浩居... 法儀...

忠烈云々... 孝公英英... 忠臣... 孝子... 浩居... 法儀...
... 孝公英英... 忠臣... 孝子... 浩居... 法儀...
... 孝公英英... 忠臣... 孝子... 浩居... 法儀...

いままさる家よりいふは良將の教と
なりしりしは乃た小女と代徳と小治所が
事く復きせし月道房も賢
物作りは形くくも由免と暮り及
嫁し夜はくも星は合はく云上も
保二位を好く感しひりもなる
形ひりきりし婚姻とその入
と形より婦人より形は深き人

毎しこの物せ支存そのみちり政所の
子代徳と暮りし多の兒女
の孝義の流るるありしとあり
くさるる上意とありし形光そ子の
兼是の臨みありしありしあり
子代徳と政所送りし礼やと
宿而ししとありしあり

岩城実純卷之二

